

筑波大学 人文・文化学群 比較文化学類

令和7年度

外国学校経験者特別入試

小論文〔日本語〕

10:00～11:30

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。

注意事項

1. 問題冊子1部と600字詰め答案用紙1部と800字詰め答案用紙1部が配布されているか確認してください。不備があるときは、手を挙げてください。
2. 答案用紙（白色）と下書き用紙（黄色）を切り離してください。
3. 答案用紙（白色）2枚に、「学群、学類、氏名、受験番号」を記入してください。
4. 答案用紙（白色）の上部に四角い欄があります。600字詰め答案用紙に「問1」、800字詰め答案用紙に「問2」と記入してください。
5. 問題冊子は表紙を除いて2ページあります。試験開始後、確認してください。不備があるときは、手を挙げてください。
6. 問題は2問あります。すべてに解答してください。
7. 解答は横書きで書いてください。
8. 答案用紙は設問の指定字数に応じて使用してください。上部から解答を記入し、残りは余白としてください。
9. 下書き用紙（黄色）に書いた答案は、提出しても受理されません。
10. 質問がある場合や気分が悪くなった場合には、手を挙げてください。
11. 試験終了後、答案用紙（白色）2枚のみを回収します。問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章は、古田徹也『謝罪論 謝るとは何をすることなのか』（二〇二三年）の「プロローグ」の冒頭である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

（この部分は、著作権の都合により公開できません）

注1 聖アウグスティヌス…アウレリウス・アウグスティヌス（三五四―四三〇）。ローマ帝国時代のカトリック教会の司教。神学者、哲学者。『告白』は自伝である。

問一 傍線部「小さな子どもに「謝る」ということを教える場面を想像してみよう。」とあるが、筆者はなぜ、この一文から話題を始めているのか。その意図を考察し、二〇〇字以内で述べなさい。

問二 「謝罪」について、筆者の見解をふまえた上で、あなた自身の考えを自由に述べなさい。ただし、具体的な例をあげること。字数は八〇〇字以内とする。